

令和5年度 いのちの授業 事例集（中学校）【技術・家庭】

掲載数

12

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中3	技術・家庭	家族地域とのかかわり	家族との関わり 今の自分と家族との関わり方を振り返り、家族関係をよりよくする方法を考えた。家族と関わる機会を多くするために、普段していることを書き出し、クラスで共有した。また、立場を変えて自分が親になった時にどんな気持ちで子どもに注意したりするかなど考えさせ、保護者の気持ちについて考えさせた。	・家庭科教員、3学年で実施、教科書、プリントを使用した。
2 相模原市	中3	技術・家庭	「幼児、園児とのふれあい体験活動」	ねらい：幼児、園児との関わり方についての課題を見つけ、学習した基礎的・基本的な知識を活用して、より良い関わり方を考える中で、幼児園児への理解を深める。 活動：0～1歳児、3歳児、4～5歳児とグループ分けて、体育館や視聴覚室、教室を使い、ふれあい体験を行った。幼児園児と一緒に遊ぶ中で、自分たちの生い立ちや成長を考える機会となり、いのちを大切にすることを心がけることに繋がった。	近隣の幼稚園や保育園
3 横須賀市	中複合	技術・家庭	食育講演会「食の大切さ」	「食の大切さ」について神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究科長、鈴木志保子教授に講演していただいた。水分・食事をとることはなぜ大切なのかについて体の仕組みに注目しながら学んだ。そして自分たちの今の食生活についてグループでにふりかえり、改善点を見出した。どのような食生活をしていきたいか、そのために必要なことは何かについて、自分のこととして考え、生きていく上の根幹になる食について意識を高めることができた。	神奈川県立保健福祉大学の先生
4 湘南三浦	中2	技術・家庭	避難所運営と防災食の調理	東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨など災害大国日本で生活する生徒にとって災害時に臨機応変に対応できる力が求められている。 しかし、生徒は東日本大震災時、1～2歳であり、記憶がほとんどない。 以上のことから総合にて防災教育と連携し、HUGゲームで避難所の運営とポリ袋クッキングを行った。電気を消し、暗い教室にて食事を行った。	※中3においても災害食の調理を行い、カップケーキを作った。
5 湘南三浦	中1	技術・家庭	〇〇のための献立を考えよう	近年、様々な社会や家庭の状況によりこ食が進み、さらにコロナ感染症の流行により人と食事をする機会が減っている。そこで、誰かのために栄養を計算し、楽しく食事をする工夫を考えた献立の提案を行った。	

6	湘南三浦	中2	技術・家庭	防災学習	地震、豪雨、台風あらゆる災害がある日本。グループ学習で地震の避難、避難時調理方法などテーマを決め、いざという時の命を守る対策を調べた。	家庭科教諭
7	湘南三浦	中3	技術・家庭	わたしの成長と家族	自分の乳幼児の頃を身近な人に聞いてレポートを作成した。生まれたときの様子、名前の由来、得意だったこと、好きだった遊びなどを知ること、まわりの人々と関わり合い、育ててもらったことを理解することができた。胎児の様子を知ること、いのちの大切さを深く知ることができた。	
8	県央	中3	技術・家庭	幼児の生活と家族	子供が育つ環境としての家族の役割について、幼児の心身の発達を支え、生活の自立に向けた生活習慣の形成を促すために、幼児にふさわしい生活を整える役割にがあることを理解できるようにするとある。その際に、愛情をもって接しとあるが、この部分で小さいのちの大切さを伝える。いのちとは、食事だけでなく遊びの意義やよりよい関わり方も関係していることに気づかせ、そのようなことは幼児期からこそ重要かつ必要であることを理解させる。 生徒からは幼児を見たり触れたりすると「かわいい」という声も聞こえてくるが、その場だけの「かわいい」ではなく1つのいのちであり、小さいのちを守るために自分たちに何ができるのかを考える生徒も存在した。	
9	県央	中3	技術・家庭	保育	地域の保育園で保育実習を行うことで幼い子とのかかわり方や命の大切さを知った。	保育士
10	県央	中3	技術・家庭	自分の成長と家族	これまでの成長を振り返り、クラスメイトとも意見交換しながら、ここまで色々な人と関わりながら大切に育ってきたことを実感させた。「自分らしい生き方とは何か」を問いながら、将来への展望につなげた。	
11	県西	中3	技術・家庭	園児との交流	ふれあい活動を通して、幼児を理解することで、自分の幼い頃を振り返り周りの大人たちとの関係に気づくことができた。また、乳幼児期の大切さを実感できた。	中井町内の保育園での実習
12	県西	中2	技術・家庭	いのちをいただく	家庭科の授業で、VTR「いのちをいただく」食肉加工センターに飼っていた牛（みーちゃん）を売りに行くおじいさんと孫の話などを見る。その後の授業で、アジを手で捌く方法を地元の方から習い、実践して調理し、食べた。授業を通して、自分たちの命は、多くの命に支えられていることを知り、食べ物を粗末にしない心を育むことができた。	「いのちをいただく」DVDデジタル紙芝居文（アースドラゴン）文：内田美智子 魚の手開き講師：地元の方